町長発！〝がんばるトーク〟

町長　上川 元張

10月1日から町営バスの運行を一部変更しました。定時便について、運行事業者としてこれまで本町の公共交通をお支えいただいてきた日本交通㈱に代わり、デマンド便を運行する観光タクシー㈱が引き継ぐこととなりました。これを機に、定時便の落折・吉川線及び眷米線のダイヤの見直しを行い、鉄道等との接続の利便を高めるとともに、利用の少ない時間帯の便を一部減便しました。あわせてデマンド便について、利用料金を一律２００円に引き下げ、営業時間を拡充するとともに、台数を1台増の3台体制に増強しました。これは、距離に応じて高くなる現行の料金体系に対し、「町内どこに住んでいても同一で利用しやすい料金に」という町民の切実な声にお応えしたものです。

実は、今回の見直しは「序章」です。今後、町民の一層の高齢化や業界のドライバー不足に鑑みると、将来、ドア・トゥ・ドアのデマンド方式、かつ町民ドライバー主体の運行体制へのシフトは避けられないと感じています。とりわけ、団塊の世代が後期高齢者となり、免許返納者が今後一層増える見込みであることから、公共交通の利便性の確保は待ったなしの課題であり、今年を見直しの元年と位置付けて取組を強化しています。

具体的には、集落で運転手を立てて運行する共助交通について、現在3地区（吉川、高野・上高野、落折・小船）での運行を、池田、眷米、諸鹿の各谷全域に拡大し、若桜宿内はグリーンスローモビリティでカバーすることを目指しています。さらに、現在、赤松・高野・屋堂羅方面で運行しているスクール便を、池田方面、眷米方面にも導入し、学園生の登下校の利便性を高めることとしています。これに町営バス定時便・デマンド便を組み合わせて、町民が利用しやすく、かつ効率的で持続可能な公共交通に再構築したいと考えています。

ただし、目標とする運行形態は一足飛びにできるものではなく、完成までには時間が掛かります。この間、例えば、共助交通エリアが拡大すれば、デマンド便は縮小できますし、スクール便が導入されれば定時便は縮小できます。このように、状況の進展に応じて、柔軟にその都度最適な運行形態に見直していきたいと思います。

現在、共助交通については、池田の集落から実施希望が上がっており、既存の2地区と合わせ、池田・吉川地区全域での運行を目指して関係集落と協議を進めています。今後、眷米や諸鹿の谷でも手が上がることを期待しています。グリーンスローモビリティは宿内を循環する生活交通用と観光の二次交通用の2台の車両を発注し、町民から運転手を募集しています。スクールバスについても2台を発注していますが、定時便のバスの老朽化もあり、調達後、当面は定時便との共用を検討しています。いずれも車両の調達まで数カ月と想定以上の期間を要するため、納品のあったものから順次、運行に供することとしています。

町民の皆様が、免許を返納されても、買い物や通院、ちょっとした外出など日常生活を継続できるよう、いつまでも住み続けられる環境づくりに力を入れてまいります。

▲共助交通「わあすか」（吉川地区）